

素足になじむ床 心落ち着く壁



京都産北山杉を拭き漆の手法でコーティングした西野さん宅のフローリングはあめ色に輝く(京都市)

大通りから一筋入ると落ち着いた町家が並ぶ京都市中心部。その一角にある古い町家を2年前、古木や和紙、土壁など伝統的な素材を使って全面改装したのがスワイヤーかおりさん(57)の自宅だ。

かおりさんは家族とともに一年の多くをロンドン、残り数カ月を京都で過ごす。寝室の一面は、金箔を貼った上に黒漆で波模様を描いた漆塗りだ。「漆はシンプルだけであたたかみがあり、心が落ち着く。そして何よりも芸術性が高い。自分のためのせいたく空間です」

和室の床柱や浴室の洗面台にも漆を施した。何度も漆を塗ってふき取ることを繰り返す「拭き漆」という手法を使った洗面台は木目がしかりと見え、木のぬくもりが伝わってくる。「水をはじき、ふきやすく、手入れも簡単です」(かおりさん)

食器や工芸品として長く親しまれてきた漆を住空間に取り入れる人が増えている。京都市伏見区のマンションに住む西野隆夫さん(49)もリビングルームや廊下の北山杉のフローリングを拭き漆で仕上げた。素足で歩くと「肌なじみがいい」という独特の光沢感を放つあめ色の床は「普通のフローリングと比べると質感が全違う」。



スワイヤーさん宅の寝室のベッドの上部分の壁は波模様を描いた漆塗り(京都市)

あめ色 年経るごとに変化

の粉をまき、蒔絵や貝殻を漆地にほめ込む螺鈿は工芸品として広がっていった。大航海時代、漆器は輸出され、漆や漆器を「JAPANESE」と呼ぶようになった。ハブスブルク家の女帝、マリア・テレジアもコレクターだったとされる。

漆がない欧州では王侯貴族の東洋趣味とともに漆器の人気が高まり、漆黒を表現するために別の塗料を使って「ジャパニング」という仕上げの模倣も始まったという。

西野さんの家の塗装を手掛けた漆芸家の島本恵未さん(30)は4年ほど前、壁面や室内のパネル、公共空間のオブジェの要望がきっかけで建築の世界にも足を踏み入れた。

以前は寺院の内装の塗り直しや仏具の修復といった仕事が多かったが、フローリングや部屋の壁面などに漆を施してみると「洋の空間にもあう」ことに気がついた。最近では東京・銀座のマンショ



漆芸家の島本恵未さんは建築からワイングラスまで漆の活躍の場を広げる。グラスには繊細な蒔絵や螺鈿を慎重に施す(京都市)

HERNO

青山店 銀座店 札幌三越店 高島屋日本橋店 日本橋三越本店 阪急メンズ東京店 高島屋横浜店
 松坂屋名古屋店 大丸京都店 高島屋京都店 阪急うめた本店 阪急メンズ大阪店 大丸神戸店 福屋八丁堀本店

ヘルノ・ジャパン TEL 03 6427 3424
 WWW.HERNO.JP